

七峡だより

令和3年 12月 1日
荒川区立第七峡田小学校
校長 高田 大

百聞は一見に如かず

校長 高田 大

緊急事態宣言の解除、リバウンド防止措置期間の終了を受け、学校では様々な教育活動を条件付きで再開しています。その中でも特に大きなものが校外行事です。昨年度実施できたのは一部の社会科見学のみでしたが、「移動中や目的地での感染症対策に留意すること」を条件として、この11月にはこれまで延期になっていた校外行事を多く実施することができました。

1、2年生は貸切バスでしながわ水族館へ遠足に行きました。昨年度は遠足自体の実施がなかったことで2年生にとっても小学校生活初めての遠足となりました。水族館が魅力的だったのはもちろんのこと、バス移動で高速の高架道路を走る際には車窓を見た子どもたちから「空を飛んでる！」という歓声が聞かれ、さながら遊園地のアトラクション気分。往復の道中も含め丸一日楽しめたようでした。

3年生にとっては1学期から延期となっていた遠足、4年生は中止となった下田臨海学園の代替行事としての遠足を、3、4年生の合同遠足として実施しました。せっかくの合同行事ということで、3、4年混合での班行動を中心に取り入れました。東京タワーでもマクセルアクアパーク品川でも4年生がリーダーシップをとろうと奮闘し、高学年に向けての成長が期待できる姿が見られました。

そして10月の5年生移動教室に続き、11月には6年生が下田移動教室を挙行了しました。4年生の臨海学園で訪れて以来2年ぶりの宿舎に「懐かしい」という声が聞かれました。4年生の頃と比べて自分たちで支度をしたり進めたりできる場面が確実に増えており、友達と過ごす1泊2日を満喫する中で小学校生活6年間を振り返るきっかけにもなったのではないかと思います。

これら以外にも4年生の「環境・星空教室」（リサイクルセンター、ゆいの森あらかわ）や3年生の尾竹橋消防出張所見学と、地域の施設を見学する学習も再開しています。2年生の「町たんけん」では近隣の商店の方々にも見学やインタビューのご協力をいただきました。



コロナ禍に入ってから今に至るまで、学びを止めないために様々な技術や代替措置が工夫されてきました。特にICTの活用・発展は目覚ましいものがあります。しかし今回様々な行事の引率を通して感じたのは、動植物や自然環境、また人々の仕事や営みに関わることについて学ぶ上では、直接体験に勝るものはないということです。正に「百聞は一見に如かず」です。

11月は幸いにも感染症の流行が収束傾向にありましたが、今年は厳冬とも言われており、昨年流行のなかったインフルエンザや、新型コロナウイルスについてもオミクロン株などの流行が今後も懸念されるところです。体験の場をできる限り確保しつつ、感染症対策も引き続き徹底してまいります。

今週末は土曜授業公開と展覧会です。児童の出席番号をもとに来校者数が児童数の半数以下となるよう制限しての実施となります。子どもたちの普段の学校生活の様子や、1学期からの数々の力作の展示をぜひ「見て」いただければと存じます。

下田移動教室を終えて

6年担任

11月24日、25日に下田移動教室に行きました。昨年度は残念ながら清里移動教室に行けなかったこともあり、子供たちはこの機会をととても楽しみにしていました。「規律」「協力」「自立」の3つを柱にしてそれぞれがめあてを立てて過ごしました。生活の要所で、友達同士で協力し合っている姿や、自らできることを考え率先して行う姿が見られ、2日間の中でもまた一段と成長できる機会となりました。

【児童の感想から】

○ぼくは、ペリーロードに昔の風景が残っていることや海中水族館でのイルカショーの迫力が印象的であったことなどたくさんの思い出ができました。みんなと一緒に入ったお風呂では、ルールを守り楽しく温まりました。1泊2日でしたが充実した2日間でした。



○私は、班長としてみんなをまとめられるか不安でしたが、みんなが自分で考えて行動をしてくれたので楽しい思い出となりました。特に海中水族館のイルカショーやアシカショーが思い出に残っています。この経験を中学校でも活かしたいです。

○ぼくは下田で時間を意識することを一番に考えました。理由は時間が遅れるとその場所に行けなくなってしまい、みんなに迷惑がかかってしまうからです。2日間5分前行動を特に意識し素早く行動できました。小田原城や海中水族館などでたくさん楽しめてよかったです。

○ぼくは今回下田移動教室で磯の生物学習会やペリーロードの散策を通して色々なことが学べました。とても楽しかったです。今回の下田で友達と協力することの大切さ、時間を守ることの大切さを学びました。この経験を日々の生活に活かしていきたいです。

12月の生活指導目標「気持ちよい言葉づかいをしよう」

生活指導主任

人と人のつながりを円滑にするために、言葉づかいは大切な役割を果たします。現在、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、マスクを着けて生活をしています。顔の表情だけで相手に気持ちを伝えることが難しい状況です。だからこそ、相手に心を込めて丁寧な言葉であいさつをすることは、お互いの関係をよりよいものにするために大切です。自分から進んであいさつをすることができるように声掛けを行い、どんな人が聞いても気持ちよいと感じられる言葉づかいを心がけられるように指導していきたいと思います。